足利赤十字病院　病診・病病連携ニュース

2021年5月 vol.31

Nisseki Bridge

Nisseki Bridge

今こそ One Team

国際的な病院機能評価機構であるJCI（Joint Commission International）の認証を更新

◆院長退任挨拶　（小松本 悟）

◆院長就任挨拶　（室久 俊光）

◆副院長退任挨拶（高橋 孝行）

◆副院長就任挨拶（古泉　潔 ）

◆麻酔科の現況 ～COVID-19対策を含めて～

◆当院における整形外科の現状

◆医療国際部 Joint Commission International（JCI）認定医療機関としての足利赤十字病院

◆臨床検査部 国際規格「ISO15189」の認定更新

理　念

患者の皆さまがかかってよかった
職員のひとりひとりが勤めてよかった
と言える病院を創ります。

CONTENTS

1　院長退任挨拶　（小松本 悟）
2　院長就任挨拶　（室久 俊光）
3　副院長退任挨拶（高橋 孝行）
4　副院長就任挨拶（古泉　潔 ）
5　副院長補佐就任挨拶
6　診療部長就任挨拶
7　麻酔科
8　整形外科
9　医療国際部
10　臨床検査部
11　登録医・登録歯科医療機関一覧
　　地域連携課の実績報告

退任挨拶

名誉院長（前院長）　小松本 悟

2021年3月末日をもって院長を退任いたしました。大過なく職責を果たすことができましたのも、ひとえに地域の先生方のご厚情とご指導のたまものと心より感謝を申し上げます。

足利での31年間は、立ち止まらず、ただひたすらに前だけを見て走り続けて参りました。退任を機に改めて後ろを振り返ってみると、様々な思い出が一気に蘇ります。その中には良い思い出と同じくらい反省すべき思い出も多く、たくさんの方に見守られ、支えられて今の私があるということを痛感せずにはいられません。退任後は名誉院長として、今度は一番後ろから足利赤十字病院を支えていく所存です。

当院は、室久俊光新院長のもとで新たな一歩を踏み出して参ります。地域の先生方や患者の皆様、職員と共に『足利赤十字病院にかかってよかった 職員ひとりひとりが勤めてよかった』と言える病院を創り上げてくれるものと信じております。新体制となりました足利赤十字病院に今後とも一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、長きに渡り支えてくださった地域の先生方ならびに関係者の皆さまに心から感謝と御礼を申し上げ、退任のご挨拶とさせて頂きます。31年間本当にありがとうございました。

【略　歴】

1975年　3月　慶應義塾大学医学部卒業。その後、同大学院にて医学博士学位取得
1984年　6月から2年間米国ペンシルバニア大学脳血管研究所留学帰国後、慶應義塾大学神経内科医長就任
1990年　1月　足利赤十字病院着任
1994年　6月　足利赤十字病院　副院長に就任
2005年　医療管理政策学修士（MMA:医業のMBA）取得
2006年　診療情報管理士取得
2008年　4月　足利赤十字病院　院長に就任
2010年　4月　慶應義塾大学医学部客員教授就任
2013年　4月　獨協医科大学臨床教授就任
2017年　4月　群馬大学医学部臨床教授就任
2017年　6月　日本病院会　副会長就任
2019年 11月　国際病院連盟　理事就任（IHF:International Hospital Federation）
2020年　1月　アジア病院連盟　会長就任（AHF:Asian Hospital Federation）
その他、各学会評議員等要職を兼務

就任挨拶

院長　室久 俊光

地域の先生方には、日頃から当院をご支援頂き心から御礼申し上げます。この度足利赤十字病院長を拝命致しました室久でございます。私にとって身に余る重責ではありますが地域医療、病院に貢献できるよう精一杯の努力をする所存ですので引き続きご支援、ご協力賜りたくよろしくお願い申し上げます。

私は獨協医科大学を昭和61年に卒業し直ちに同大学消化器内科に入局、消化器内科学とくに肝臓病について研鑽を積んで参りました。肝臓病の中でもウイルス肝炎や肝硬変、劇症肝炎をふくむ急性肝不全、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎の診断、治療を専門にしておりました。現在は主に消化器領域の内科診療を担当し、また消化器内視鏡指導医として若手内視鏡医の育成にも携わっています。

足利赤十字病院には平成31年1月に内科部長として赴任し同年4月からは副院長として病院運営に携わって参りました。その間前院長である小松本悟先生から病院経営についてご指導を頂き勉強する機会を得ました。これらの経験を生かして足利赤十字病院が地域で愛され信頼される病院となるよう努めて参ります。

さて昨年度を振り返りますと医療機関を含めて全世界的に厳しい年であったと思います。COVID-19の流行により経済活動は停滞し、医療が逼迫、一時は栃木県内でも一般診療に支障が出る事態となりました。当院では2020年2月のクルーズ船への救護班派遣から始まり新型コロナウイルスPCR行政検査の開始、感染確定患者の受け入れ、さらに2020年10月からは発熱外来の設置など新型コロナ感染症に対応して参りました。また入院患者さんへの面会全面禁止や入館者の体温測定、マスク着用、手指消毒の徹底を行い院内感染の予防に努め、一般病棟全室個室も相まって本日まで院内感染を起こすことなく診療を継続することが出来ています。新型コロナウイルス感染については未だ予断を許さない状況が続いていますが今後も感染対策に万全な体制で臨み感染症に強い病院として活動していきたいと思います。

その他、本年2月に病院の国際認証であるJCI(Joint　Commission　International)の更新を致しました。今回はCOVID-19の影響もあり審査員は1名のみ来院し他の2名の審査員はWEBでの審査となりました。審査基準は従来と変更なく非常に厳しいものでしたが高得点での更新認定となりました。さらに同月にISO15189（臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項）の更新にも合格しました。臨床検査室には精確な(accurate)結果を提供する能力が問われる他、検査室外のいかなる人も検査結果を変更することができない業務の独立性が要求されており、この国際基準に合致していることが証明されました。

本年度は外国人患者受け入れ医療機関認証制度（JMIP）の更新があります。当院は国際的基準に合致した病院として今後も活動して参ります。

新院長になりましたが紹介患者さんのスムーズな受け入れ、断らない緊急紹介を通じて地域の先生方の期待に応え、地域の中核病院としての使命を果たしていく所存ですので引き続き一層のご指導、ご支援賜りますよう何卒よろしくお願い致します。

退任挨拶

参与（前副院長） 高橋 孝行

アメリカ留学の後、足利赤十字病院に赴任し気が付くと24年7ヶ月が経過していました。外科医に復帰したものの４年間のブランクで背中にリハビリ中の紙を貼りたいくらいでしたが、程なく外科医の勘が戻ってきました。当時の腹腔鏡下胃切除術は局所切除が中心で、私のミッションは通常の胃切除術を腹腔鏡下で行う事でした。シミュレーションや豚での手術に成功したのち臨床に臨みました。開腹術に比べ視野の展開が難しく時間も長く掛かりましたが、出血が少なく術後経過良好なことに驚きました。その後も自分なりに手技の開発を進め、2008年に内視鏡外科学会の技術認定を取得しました。外科以外にも沢山の経験をしました。1997年医療訪米団として病院職員を引率して足利の姉妹都市スプリングフィールドへの旅に出かけました。2005年9月、寿司を食べた直後のジョギング後、運動誘発性食物依存性アナフィラキシー・ショックで倒れ救急搬送、九死に一生を得ました。2007年10月からは感染対策を担当し、指定抗菌薬届出制と抗MRSA薬許可制を開始して多剤耐性菌の減少に成功しました。2011年3月11日東日本大震災では救護班班長として石巻で3日間活動しました。その後も活動を続け3年後に栃木県災害医療コーディネーターを拝命しました。2020年2月14日から16日までコロナ対策としてクルーズ船の救護活動を行い、以後院内感染対策に力を入れ、幸い院内のクラスター発生ゼロをキープ出来ました。長い間本当に有り難うございました。定年退職後は参与として外来診療や内視鏡検査を継続しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

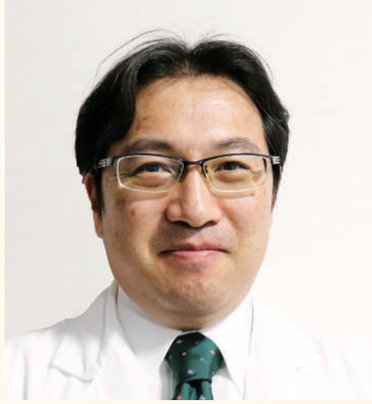
東日本大震災救護中、近衛社長（当時）・国際赤十字社の方と

腹腔鏡下胃切除手術中

就任挨拶

副院長 古泉 潔

（兼）第一心臓血管外科部長（兼）医療技術部長



常日頃、足利赤十字病院の診療にご協力いただきありがとうございます。2021年4月1日付で、副院長を拝命いたしました古泉潔と申します。私は、栃木県立大田原高校を卒業後、山形大学で医学を学び、慶應義塾大学心臓外科医局に入局後、約20年心臓血管外科に従事してまいりました。その約半分は県内の済生会宇都宮病院で、研鑽を積んでまいりました。その経験を活かし、6年前から心臓血管外科部長として、当院での仕事がスタートしました。

私が、心臓外科チームをまとめていくうえで、まず注力したのが、メディカル、コメディカルスタッフが働きやすい環境を構築することでした。それが手術成績の向上と患者満足度の向上につながると考えていました。地域関連病院の皆さまのご協力もあり、お陰様で心臓外科チームは、患者によりよい医療が提供できているものと自負しております。さらに3年前より、循環器内科と心臓血管病センターを立ち上げ、さらに大きなチームを作ることができました。

さて、これからはさらに大きな足利赤十字病院という大きなチームを動かしていく役目を授かりました。コロナ禍で、不安定な医療環境が続いております。医療を取り巻く環境も、働き方改革など、常に変化しております。しかし、根幹の理念は変わりません。patient first、患者中心の医療を念頭に置き、努力邁進していきたいと思います。

今一度、当院の理念

患者の皆さまがかかってよかった

職員のひとりひとりが勤めてよかった

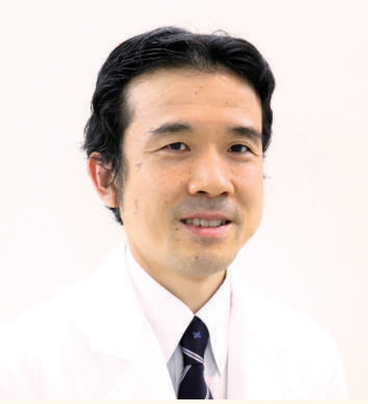
といえる病院により近づけるよう、皆さまと共に歩んでいければ幸いです。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

2015 − 2020 心臓外科手術件数

冠動脈バイパス術	約 190 例
弁形成術・弁置換術	約 103 例
大動脈瘤・解離	約 90 例
ステントグラフト	約 290 例

副院長補佐 診療部長就任挨拶

心臓血管病センター



副院長補佐　**沼澤 洋平**

（兼）第一循環器内科部長

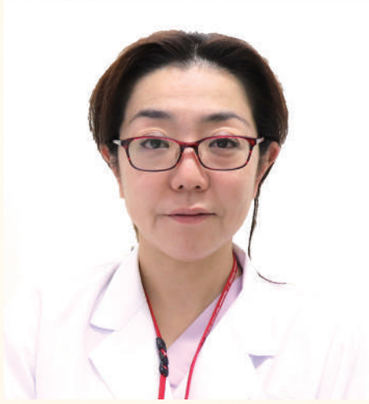
この度、2021年4月1日付で副院長補佐を拝命致しました循環器内科医の沼澤洋平と申します。私は慶應義塾志木高等学校、慶應義塾大学医学部を卒業後、医師として慶應義塾大学病院、北里研究所病院、佐野厚生総合病院などで研鑽を積んで参りましたが、早いもので2011年4月に足利赤十字病院に赴任してから丸10年が経過いたしました。元々は東京生まれ東京育ちの人間ですが、この10年の間にすっかり栃木県民、そして足利市民となり、この両毛地区の歴史や医療及び生活環境についても理解が深まってきたところでございます。若輩者で甚だ僭越ではございますが、副院長補佐として病院幹部やスタッフと協力しながら、患者の皆さまに当院にかかってよかったと思ってもらえるような質の高い医療を提供していきたいと思います。また循環器内科と心臓血管外科の連携をさらに強固なものとし、さらに多くの若手医師が足利赤十字病院で研修を行いたいと思ってくれるような病院づくりを目指し、その中心的存在となるような心臓血管病センターでありたいと考えています。

当科での診療取り組み

足利赤十字病院循環器内科部門では臨床、研究、教育の全てに力を入れています。臨床面においては心臓血管外科と協力しながら心臓血管病センターとしてCCU当直体制をとり、24時間急患の受け入れを行ういわゆる「断らない医療」を実践しております。高齢社会において急増している心不全に対しては治療効果の証明された最新の薬剤を早期から導入し、患者さんの再入院及び心血管イベントの抑制に努めております。また心不全の原因として頻度の高い冠動脈疾患に対するカテーテル治療については栃木県内でもトップクラスの治療実績を残しています。高速回転式アテレクトミー（ロータブレーター／ダイアモンドバック）や方向性冠動脈粥腫切除術（DCA）など特殊カテーテルを用いた難易度の高い心臓カテーテル治療も積極的に、かつ安全に行なっています。心臓以外の血管、例えば下肢動脈疾患に対するカテーテルを用いた血管内治療（EVT）や透析シャントに対するカテーテルインターベンションも当該科と連携を取りながら積極的に行っております。さらに早ければ今年度中に、当院でいわゆるハートチームによる経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）が施行可能となる可能性があり、現在施設認定を申請中です。手術のみならず心臓リハビリテーションにも力を入れており、循環器病棟に専属の理学療法士を配置してリハビリテーションを推進するだけでなく、心肺運動負荷検査（CPX）による科学的根拠に基づいた運動リハビリ処方を行なっています。

循環器内科スタッフ

呼吸器外科



呼吸器外科部長　**保坂 靖子**

2021年4月より呼吸器外科部長を拝命しました保坂靖子と申します。

当院の呼吸器外科は慶應義塾大学外科学教室からの人事により診療体制を築いてまいりました。本年度もその体制を引き継ぎ、常勤医2名体制でさらなる診療の拡大を目指します。

当科では、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患の手術をはじめ、気胸、膿胸、胸部外傷など幅広い呼吸器外科疾患の治療を行っております。また、高齢や、基礎疾患を複数お持ちの患者さまでも安心して治療を受けていただけるよう、呼吸器内科、放射線科をはじめ各専門分野の先生方とも連携をとり、それぞれの患者さまにとって最善の治療を提供できる体制を整えています。

以前より、両毛地域の先生方にはご支援、ご協力いただき、地域の呼吸器外科診療は、拡充することができました。我々も質の高い診療を行うべく日々研鑽を積んでいく所存ですので引き続きご支援ご協力及びご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【プロフィール】

2001年　新潟大学医学部卒業
2010年　新潟大学大学院修了
医学博士
外科学会認定医
外科学会専門医
外科学会指導医
呼吸器外科学会専門医
慶應義塾大学病院呼吸器外科所属

産婦人科

第二産婦人科部長　**増田 由起子**

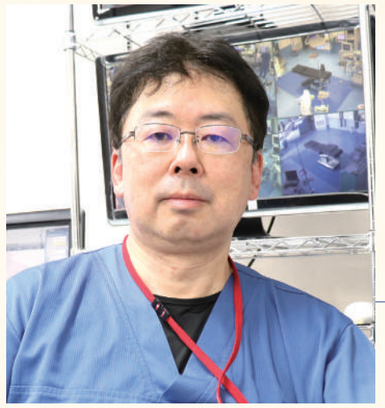
2021年5月1日より第二産婦人科部長を拝命いたしました増田由起子と申します。足利の地で生を受け福井医科大学（現　福井大学）を卒業後、群馬大学医学部附属病院・神戸大学医学部附属病院・高槻病院等々の数多の地を経て2009年4月より足利赤十字病院に勤務しております。

2018年産婦人科の医療体制を縮小せざるを得ない状況下で開業医の諸先生より励ましのお言葉をたいへん多く頂戴致しました。

現在は慶應義塾大学・獨協医科大学・自治医科大学の先生方にご協力頂き分娩件数・手術件数も回復しつつあります。

幼少期にお世話になった開業医の先生方の礎が現在も引き継がれておりますように産婦人科として女性の歩みにこれからもより添い地域周産期・婦人科診療を次世代に伝承できるよう諸先輩、同僚、スタッフと共に日々研鑽を重ねてまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



麻酔科の現況
～ COVID−19対策を含めて ～

副院長　高橋 健一郎
（兼）第一麻酔科部長

平素は、当院へ多くの手術対象患者をご紹介いただき大変ありがとうございます。

副院長（兼）第一麻酔科部長を務めております高橋です。

今回は麻酔科業務での最近の取り組みとCOVID-19対策についてご紹介いたします。

麻酔法について

当院の常勤麻酔科医は現在６名、うち５名は機構専門医（さらに２名は麻酔科学会指導医）です。経験豊富なスタッフが最新の麻酔薬とモニター機器を駆使して安全な麻酔管理を第一に取り組んでいます。

また、術直後の痛み、嘔気・嘔吐、せん妄などを軽減するために様々な工夫も行っています。術後痛については、従来からのアセトアミノフェン、NSAIDsそして硬膜外鎮痛法の他に、インフューザーを用いたiv PCA(intravenous patient-controlled analgesia)や超音波ガイド下の神経ブロック（写真）などを併用し、より多角的に対処していこうという流れになっています。

超音波ガイド下神経ブロック

COVID−19対策

COVID-19対策について

患者さまには術前２週間の健康観察チェック表をつけていただき、さらに飛沫発生の危険性が高い手術の場合にはCOVID-19核酸検査を実施しています。緊急手術では全例、短時間で結果の判明するCOVID-19抗原検査と核酸検査でスクリーニングしています。

標準予防策として、麻酔科医は気管挿管や抜管時にはフェイスシールドとPPE、手袋を着用します。COVID-19陽性あるいは疑いが強い場合は、さらにエアロゾルボックス（写真）で患者さまの上半身を覆い、飛沫の飛散と吸入を防ぎます。

接触感染予防としては、各手術室の出入り口や麻酔器周りに擦式アルコール消毒を配備し、WHOの提唱する5つのタイミングでの手指衛生を遵守しています。

手術室スタッフとともに、院内感染を絶対起こさないよう細心の注意を払って麻酔管理を行っておりますので、今後とも安心して患者さまをご紹介いただければ幸いです。

麻酔科常勤医師

当院における整形外科の現状

第一整形外科部長　丹治 敦

連携の先生方にはご紹介だけでなく治療後のフォローなどで大変お世話になっております。

昨年度も多くのご紹介をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

昨年の当科の手術件数は約670件、初診患者数は約1,700名でした。当科は増加する手術件数に対応するため、今年度より1名増員とし、8名体制となります。外傷、変性疾患、小児整形、スポーツ疾患等、さまざまな疾患に対応させていただきます。

当院独自の取り組みを二つ挙げます。骨折後の変形治癒や人工肘関節・人工肩関節置換術などに対して、Augmented Reality（AR）技術と3Dプリンターを用いた手術を行なっています。この方法は、術中にタブレットコンピュータのディスプレイに術前計画の三次元画像を映し出し、正確な手術を可能にします。また、思春期側彎症の患者さまに対して、従来のモアレ法ではなく、三次元スキャナーを用いたデジタルモアレ法による正確な計測を行なっています。思春期側彎症は早期発見が重要であり、運動器健診において最も重要度の高い疾患です。放射線ではなく赤外線を用いているため、患者さまに対する侵襲がなく、安全に行うことができます。これらの疾患の患者さまも当科に紹介いただければ幸いです。

地域の先生方との連携を密にし、地域の期待に応えられる整形外科診療を目指していきたいと考えております。どうか今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いします。

骨接合術の様子

新任医師のご挨拶

大谷慎也

本来、直接御挨拶をさせて頂くべき所でございますが昨今のCOVID-19の影響もあり紙面で大変恐縮ではございますが御挨拶をさせて頂きます。

2021年4月1日から赴任いたしました大谷慎也（おおたに しんや）と申します。足利赤十字病院で初期研修を行いその後、東京都や神奈川県などで診療をさせて頂きました。

股関節分野を専門とし、主に人工関節（膝、股関節）を担当いたします。人工股関節全置換術は側臥位前側方筋間アプローチ（OCMアプローチ）を用い、筋損傷を最小限に抑えると共に関節包を温存する方法を用いております。インプラント選択に関しては患者さまの年齢・骨密度・髄腔形態・関節可動域を考慮し可能な限り海綿骨を温存できる物を選択しております。また、手術時間を短縮し術中の出血量を抑えると共に、術後の早期社会復帰を目指した低侵襲な手術を行っております。

初診外来を火曜日にさせて頂いております。専門分野に限らず日々研鑽して参りますので御忙しい所、恐縮ではございますが御紹介を頂ければ幸いです。

今後とも御指導・御鞭撻の程を宜しくお願いいたします。

相原佑貴

4月より足利赤十字病院へ赴任いたしました、相原佑貴（あいばら ゆうき）と申します。愛媛県出身で、慶應義塾大学2017年卒です。整形外科医としては3年目で来年の専門医取得に向けて外傷一般を中心に、どんどん症例を経験していこうと考えております。少しでも精査、手術希望の患者さまがいらっしゃいましたら、外来へご紹介いただければ幸いです。毎週水曜日が私の初診外来となっておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

手島直人

このたびの異動により足利赤十字病院　整形外科勤務を命ぜられ過日着任致しました。

新任地においても微力ながら努力精進いたす所存でございますので、今後ともよろしくご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

整形外科スタッフ

医療国際部

Joint Commission International（JCI）認定医療機関としての足利赤十字病院

医療国際部室長　瀧永 哲

日本医療国際化の波に呼応して、足利赤十字病院は2019年10月に医療国際部を設置しました。立ち上げと共に医療国際部室長を拝命しました瀧永哲です。医療国際部の仕事の第一は、もちろん外国の患者さまの対応ですが、仕事はそれだけにとどまらず様々なものがあります。その具体例として、Japan Medical Service Accreditation for International Patients（JMIP：外国人患者受入れ医療機関認証制度）や、Joint Commission International（JCI）認定があります。

本年2021年2月、当院はJCI認定の3年毎の再審を迎え二度目の更新（初回を含め三回の審査合格）を果たしました。この規格は病院の医療の質を担保するものとして世界的に広く認知され、今や世界の病院で採用されています。例えば、海外で医療に不安がある場合には、JCI認定医療機関を探して頂ければ米国や日本と変わらない医療を受けることができます。

また、本年あるいは来年度（COVID-19により未定）にはJMIPの更新があり、回を重ねる毎に外国の患者さまへの、よりきめ細かい医療提供ができるようになってきています。

具体的には、当院が立地する栃木県足利市では昨年度2020年、栃木県に住民登録をされている外国の方の人口割合は3%を超えています。単純計算で100人のうち3人は外国の患者さまと言える状況です。JCI認定の足利赤十字病院にはより多くの外国の患者さまが受診され、JMIP取得により優れた医療サービスの提供が受けられるようになっています。

医療国際部の仕事には、治療や健診を目的に訪れる患者さまの受け入れ、外国人ボランティアの受け入れ、海外医療系大学との交流、国際機関との連携、国際学会主催など、様々なものがあります。日・フィリピン経済連携協定による第一号の比国看護師養成にも成果を収めています。私達は日々の業務を通して医療の国際化を推進しています。

国際化時代にふさわしい安全で良質な世界基準の医療サービスを提供するため、医療国際部は日々努めています。今後ともよろしくお願いします。

左から瀧永室長　ラリン エヴァーガメッド看護師　スコット ハーズ通訳

Joint Commission International（JCI）認定証

Japan Medical Service Accreditation for International Patients（JMIP）認証書

臨床検査部

国際規格「ISO15189」の認定更新

検査技師長　柳 和見

臨床検査部は、清水和彦部長（検査部長兼病理診断科部長）の下、臨床検査技師39名と看護師2名、検査助手1名で構成されており、生理検査（生理検査、超音波検査）と検体検査（生化免疫、血液、採血一般、輸血、細菌、病理）で組織されています。各係の担当技師は各種専門領域の認定資格を取得しており、検査の質の向上や人材育成に貢献しています。

当検査部は2021年2月11日（木）付で、臨床検査室の国際規格「ISO15189」の認定を更新しました。認定取得は2017年2月で、今回初めての認定更新となります。

ISO15189は、国際標準化機構（International Organization for Standardization：ISO）が定める臨床検査室の品質管理に特化した国際規格です。規格の要求事項は「品質マネジメントシステム（精度やリスクを管理する仕組み）」と「臨床検査の種類に応じた技術能力（臨床検査の技術能力）」の二つに大別され、認定を取得することは、臨床検査室の品質管理体制や提供する検査結果の信頼性が国際水準に達していることを意味します。認定期間は4年間で、2021年2月26日現在、全国で232の臨床検査室が認定を取得しています。

臨床検査は患者さまの診療に必要不可欠なものです。精度の高い検査結果を迅速に提供することが求められるため、このような審査を通して業務プロセスを見直し、検査の品質向上を図ることには大きなメリットがあります。また、第三者機関によって検査精度が保証されることは、患者さまの安心・信頼にも繋がると考えます。

当検査部では、認定の取得や更新自体を目的とするのではなく、その過程において品質改善のマネジメントシステムを確立させ、PDCAサイクルを回し続けることが重要であるという信念のもと、患者さまに安全で高品質な医療を提供するため、国際規格に基づく品質改善活動を継続し、検査精度やスタッフの技術の向上に努めていきます。

また、検査部に対しての要望は前向きに取り組んでいます。2020年度は患者及び診療各科から15件の要望があり、そのすべてが患者治療の迅速化に関する内容でした。これらすべてを真摯に受け止め、改善することができました。今後も継続してまいります。

昨年より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、“PCR 検査”という言葉が社会に広く知られるようになりました。当検査部においても従来の検体検査の中に新型コロナウイルスに関する検査が組み込まれ、2020年5月より検査体制を整備し、現在では夜間休日においても 24時間体制で検査部総力を上げ対応しています。昨年度の実績は、抗原検査・3,739件、核酸（PCR）検査・7,658件（図1）でした。

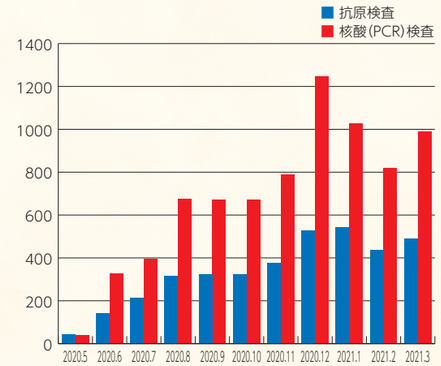
今後も医師・看護師・その他の医療スタッフとともにチーム医療の一員として、また社会的にも臨床検査のプロフェッショナルとして認識されるよう、患者さまに最新の検査技術を提供していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスPCR（核酸）検査装置

【認定証】

日本語版　　英語版

図1　新型コロナウィルス関連検査数の推移



登録医療機関一覧

医科　合計 333 施設

■ 足利市：95施設
あいファミリークリニック足利
青木病院
青空ひふ科
青柳耳鼻咽喉科
あお山クリニック耳鼻咽喉科
浅岡医院
浅原眼科クリニック
足利腎クリニック
足利第一病院
足利中央病院
あしかがの森足利病院
あしかが皮膚科クリニック
足利富士見台病院
あしかがメンタルクリニック
あなはらクリニック
阿部医院本院
天貝ペイン皮膚科クリニック
井岡眼科医院
いかるぎ町内科クリニック
いざわ脳神経内科
井戸川クリニック
今井病院
うるしばらクリニック
大岡胃腸内科
岡田内科
小倉耳鼻咽喉科医院
小沢医院
小平小児科クリニック
小平内科クリニック
落合医院
尾之内外科
小野内科消化器科医院
賀川診療所
笠原外科胃腸科医院
鹿島眼科
鹿島こどもクリニック
かしま産婦人科
鹿島整形外科
鹿島内科
柏瀬眼科
かめいクリニック
亀田医院ペインクリニック
亀山産婦人科医院
きねぶちクリニック
行徳整形外科クリニック
くさの小児科
こどもクリニックしまむら
小林内科
小松原ペインクリニック
こんのクリニック
さくら通りクリニック
三瓶医院
柴田クリニック
昌平町こどもクリニック
新山クリニック
鈴木病院
すながクリニック
整形外科かないクリニック
関内科医院
田村レディスクリニック
筑波医院
てらうち内科小児科医院
ときたクリニック
栃木産科婦人科医院
冨田内科医院
富谷耳鼻咽喉科医院
長﨑病院
なかたクリニック
なかみがわ内科・小児科クリニック
中谷医院
中山内科医院
西田医院
はじか外科内科
平沢内科医院
深井眼科医院
福地医院
ふじさわみみはなのどクリニック
伏島医院
伏島クリニック
堀江皮フ科クリニック
本庄記念病院
前沢病院
増田医院
みくりや整形外科
みどり眼科クリニック
皆川病院
みなみ眼科
柳田医院
山浦内科医院
山川ゆい診療所
ゆはし医院
横山皮膚科医院
吉田醫院
両毛クリニック
わたなべ整形外科

■ 佐野市：56施設
相田婦人科内科医院
秋山内科医院
ありさわ眼科クリニック
板橋医院
江面外科胃腸科医院
大野眼科クリニック
岡産婦人科医院
岡田こどもクリニック
小倉医師会通りクリニック
小島内科医院
おぬき内科クリニック
加藤クリニックプラザ
神永皮膚科医院
亀田医院
くすのき整形外科
くまいクリニック
黒田整形外科医院
こばやしファミリークリニック
齋藤耳鼻咽喉科医院
齋藤内科医院
さかい皮フ科クリニック
佐野市国民健康保険常盤診療所
佐野市国民健康保険氷室診療所
佐野市民病院
佐野利根川橋クリニック
佐野西村眼科クリニック
志賀クリニック
清水整形外科クリニック
城山公園すずきクリニック
すがやクリニック
鈴木内科クリニック
関谷内科胃腸科医院
蘇原医院
匠レディースクリニック
竹石内科クリニック
土屋小児科
坪水医院
富田内科クリニック
長島医院
のしろクリニック
馬場医院
平野外科医院
藤田整形外科医院
ほだかクリニック
ほりごめクリニック
増田内科医院
丸山レディースクリニック
緑の屋根診療所
ヤマト医院
山中クリニック
よこづかハートクリニック
柳川小児科医院
吉田耳鼻咽喉科クリニック
両毛病院
若林胃腸科医院
綿引クリニック

■ 太田市：70施設
あい太田クリニック
あいファミリィクリニック太田
新井診療所
荒木医院
有坂医院
石川皮膚泌尿器科
伊藤産婦人科
イムス太田中央総合病院
岩崎医院
うがじんクリニック
えはら内科クリニック
大川眼科
大島胃腸科内科クリニック
太田記念病院
太田協立診療所
太田じんクリニック
太田中央眼科
おおたブレストクリニック
太田糖尿病クリニック
太田南クリニック
荻野整形外科クリニック
鹿山整形外科
川田クリニック
木崎クリニック
喜多村クリニック
くつなクリニック
剣持整形外科
こいそ整形外科クリニック
宏愛会第一病院
小島医院
小林胃腸科医院
小林クリニック
坂本胃腸科医院
佐藤耳鼻咽喉科医院
三枚橋病院
耳鼻咽喉科みなみ医院
下浜田クリニック
秀クリニック
城山病院
杉立医院（ｽｷﾞﾀﾃｲｲﾝ）
杉田内科医院
関口医院内科
宝診療所
たちばな小児科アレルギー科クリニック
東毛敬愛病院
とうもう整形外科クリニック
ときざわレディスクリニック
登田医院
呑龍クリニック
中野医院
なないろこどもクリニック
成田医院
野口皮膚科医院
八幡クリニック
服部・えびすさまクリニック
平原内科・消化器科
深川クリニック
ふくだ耳鼻咽喉科クリニック
藤井レディースクリニック
冨士ヶ丘病院
星野内科胃腸科医院
堀江病院
堀越医院
まえはら耳鼻咽喉科クリニック
みのわクリニック
もとじま整形外科・糖尿病内科
本島総合病院
山口医院
山田クリニック
和賀クリニック

■ 館林市・邑楽郡：59施設
阿部医院
新井内科クリニック
板倉耳鼻咽喉科クリニック
伊藤眼科医院
宇沢整形外科
おうら病院
岡田整形外科クリニック
小曽根整形外科
海宝病院
かさはら内科医院
加藤医院
金丸内科医院
神尾内科医院
川島脳神経外科医院
川田耳鼻咽喉科医院
慶友整形外科病院
県西在宅クリニック舘林
公立館林厚生病院
ごが内科楡クリニック
後藤クリニック
小林内科医院
こやなぎ小児科
さくま内科胃腸科クリニック
さくらクリニック
佐々木皮膚科クリニック
澤田皮膚外科
しんじょう整形外科クリニック
新橋病院
鈴木眼科医院
高木整形外科
高橋クリニック
たけい小児科・アレルギー科
竹越医院
多々良診療所
館林医院
館林記念病院
たなか医院
田沼整形外科医院
田沼内科医院
千代田医院
つつじメンタルホスピタル
寺内医院
土井レディスクリニック
ハートクリニック
蜂谷病院
はまだクリニック
福田ペインクリニック
富士クリニック・ペインクリニック
星野こどもクリニック
堀越医院
ましも内科・胃腸科
松井内科医院
真中医院
黛泌尿器科内科医院
まりレディスクリニック
三浦医院
ミツワ診療所
森下内科医院
横田胃腸科内科

■ 桐生市・みどり市：51施設
アイダ痛みのクリニック
雨宮内科医院
石川整形外科医院
石川内科クリニック
いずみ内科
岩下病院
大澤医院
大前医院
おりひめ医院
川島眼科医院
菊地医院
岸病院
北川眼科医院
北川内科クリニック
桐生クリニック
桐生厚生総合病院
桐生整形外科病院
くりた医院
クリニック樹
恵愛堂病院
小島内科医院
こんどう整形外科リハビリテーション科医院
斎藤医院
さかいのクリニック
坂本内科医院
さくら耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科設楽医院
昭和皮膚科医院
城田クリニック
新宿医院
鈴木整形外科クリニック
須永医院
赤南診療所
高木病院
たかのす診療所
東邦病院
永田医院
日新病院
はせがわ循環器内科クリニック
長谷川整形外科医院
ひきた小児科クリニック
藤井内科医院
藤江醫院
星野クリニック
前川内科医院
松井内科医院
三丸医院
矢部クリニック
山口クリニック
大和病院
わたらせリバーサイドクリニック

■ 栃木市：2施設
あまがい内科医院
小松原医院

市町村別・五十音順

歯科　合計 181 施設

■ 足利市：64施設
青木歯科医院
麻野歯科医院
足利デンタルクリニック
アシコタウン歯科
アベ歯科
阿部歯科医院
阿部歯科クリニック
天海歯科診療所
いもと歯科医院
いもと歯科医院（八椚）
植木歯科医院
大川歯科医院
岡田歯科クリニック
岡林歯科医院
おかむら小児歯科クリニック
おざわ歯科医院
柏瀬歯科医院
春日丘歯科
加藤歯科医院
かなえ歯科クリニック
河内歯科
かわまた歯科医院
きが歯科医院
久保田歯科医院
小林歯科医院
小林歯科クリニック
コム中島歯科
近藤歯科医院
さくら歯科
櫻井歯科医院
さくらい歯科クリニック
歯科あべクリニック
しのだ歯科医院
しのだ歯科クリニック
鈴木歯科医院
須永歯科医院
関根歯科クリニック
添野歯科医院
田辺歯科医院
長歯科医院
つるた歯科クリニック
とき﨑歯科医院
戸塚歯科医院
とば歯科医院
内藤歯科医院
中島歯科医院
ながしま歯科・口腔外科クリニック
ながせ歯科医院
なかたに歯科
西田歯科医院
2丁目石井歯科医院
はぎわら歯科医院
ほり里小林歯科
マキオ歯科医院
松井歯科医院
松島歯科医院
むらかみ歯科・矯正歯科
やまもと歯科医院
吉岡歯科医院
よしたに矯正歯科
若田部歯科医院
若林歯科医院
渡辺歯科クリニック
わたらせ歯科クリニック

■ 佐野市：51施設
相田歯科医院
あきくさ歯科クリニック
芥川歯科医院
安蘇谷歯科
アップル歯科クリニック
新井歯科医院
安藤歯科医院
飯塚歯科医院
石井歯科医院
植木歯科医院
ウエキ歯科クリニック
えづら歯科クリニック
おおしま歯科医院
おおた歯科・小児・矯正歯科クリニック
大橋歯科医院
大畑歯科医院
岡村歯科医院
落合歯科医院
かどわき歯科クリニック
亀田歯科医院
かめのこ歯科医院
公園にれい歯科
ごとう歯科医院
こん歯科クリニック
齋藤歯科医院
さくら歯科
塩野谷歯科医院
島田歯科診療所
スマイルスマイル歯科
たかはし歯科医院
長島医院歯科
長島歯科医院
中村歯科医院
奈良原歯科
楡の木歯科医院
パール歯科医院
橋本歯科医院
長谷川歯科医院
ひまわり歯科医院
三井歯科医院
峯岸歯科医院
目黒歯科医院
やすげ歯科クリニック
柳川歯科医院
山内歯科クリニック
山口歯科クリニック
湯本歯科医院
よこづか歯科
横塚歯科医院
よこづか歯科クリニック
米山南歯科診療室

■ 太田市：14施設
あい歯科クリニック
飯塚歯科医院
おおたモール歯科
木暮歯科医院
ゴスペル歯科クリニック
須藤歯科クリニック
竹部歯科医院
田中歯科医院
中野歯科医院
野村歯科クリニック
備前島歯科医院
ヒデ・デンタルクリニック
ふじい歯科・小児歯科
山鹿歯科医院

■ 館林市・邑楽郡：22施設
石井歯科医院
石山歯科医院
岩崎歯科クリニック
おおいし歯科医院
岡田歯科医院
久保田歯科
斉藤歯科医院
齋藤歯科クリニック
高志歯科医院
武安歯科医院
ちよだの森歯科診療所
根本歯科・矯正歯科医院
野本歯科クリニック
浜田歯科医院
ひだまり歯科医院
ほりこし歯科クリニック
まちだ歯科医院
まつもと歯科医院
みやけ歯科医院
森田歯科医院
山川歯科クリニック
横田歯科クリニック

■ 桐生市・みどり市：30施設
相生なかじま歯科医院
井本歯科医院
大塚歯科クリニック
加孝歯科クリニック
金子歯科医院（相生）
かねこ歯科医院（境野）
桐生歯科医院
香村デンタルクリニック
小林歯科医院
小林歯科クリニック
古室歯科クリニック
小森谷歯科医院
斎藤歯科医院
坂爪歯科医院
さくらぎ歯科医院
須藤歯科医院（桐生境野）
須藤歯科医院(桐生東)
須永歯科医院
高島歯科医院
田島歯科
とおる歯科医院
鳥羽歯科医院
中島歯科医院
松本歯科医院
三丸歯科クリニック
森下歯科クリニック
山﨑歯科医院
百合歯科医院
わかつき歯科
わたなべ歯科クリニック

市町村別・五十音順

当院は地域医療支援病院としての機能を果たすため、地域の医療機関と協力・連携して医療を実施しています。連携する医療機関は登録医としてご登録いただいており、現在、足利市95施設、佐野市56施設、太田市70施設、館林市・邑楽郡59施設、桐生市・みどり市51施設、栃木市2施設の合わせて333施設の医療機関にご登録いただいております。
歯科登録医は181施設にご登録いただいております。登録医療機関数（医科・歯科合計514施設）　（2021年5月1日現在）

2020年度　地域医療従事者研修会　実績表

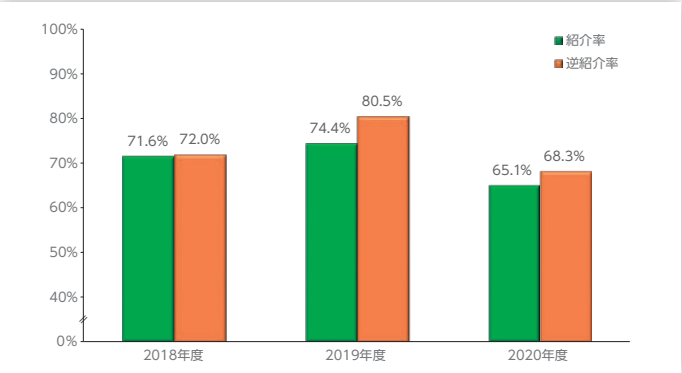
開催回数	開催年月日	研修会名		テーマ	参加人数
1	5/21	第1回感染防止対策合同カンファレンス	➡	耐性菌・抗菌薬使用状況他	28
2	7/16	第2回感染防止対策合同カンファレンス	➡	耐性菌・抗菌薬使用状況他	28
3	8/ 3	第68回耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス	➡	症例検討会	19
4	10/19	第69回耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス	➡	症例検討会	14
5	11/19	第3回感染防止対策合同カンファレンス	➡	耐性菌・抗菌薬使用状況他	25
6	1/26	太田市医師会例会　（会場：太田市医師会）	➡	「透析患者さんを減らしたい」 ～足利赤十字病院内科より病診連携の謝意～	31
7	2/24	桐生市医師会例会（会場：桐生市医師会）	➡	①「透析患者さんを減らしたい」 ～足利赤十字病院内科より病診連携の謝意～ ②「足利赤十字病院におけるロボット支援前立腺全摘除術の導入」	47
8	3/18	第4回感染防止対策合同カンファレンス	➡	耐性菌・抗菌薬使用状況他	23

紹介率・逆紹介率の推移

地域医療支援病院として認定されていることから当院が地域の医療機関をより強固に支える急性期病院であり続けるために、高い数字で紹介率をキープしていく必要があります。

この紹介率は初診となる患者さまが紹介状持参の有無に左右されます。地域の医療機関においても患者さまを病院へ紹介される際に紹介状の作成にご協力いただいております。

今後さらに多くの紹介患者をお受けできるよう迅速かつ丁寧に対応してまいりますので、地域密着型の足利赤十字病院への紹介をお願いいたします。



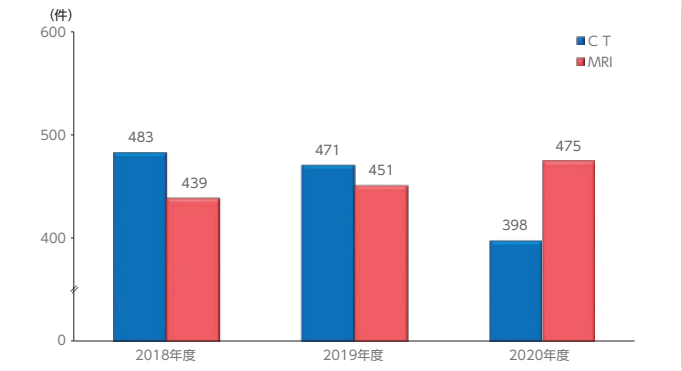
高度医療機器の共同利用件数の推移

当院では、ＣＴ、ＭＲＩの医療機器を多くの医療機関に利用いただいております。

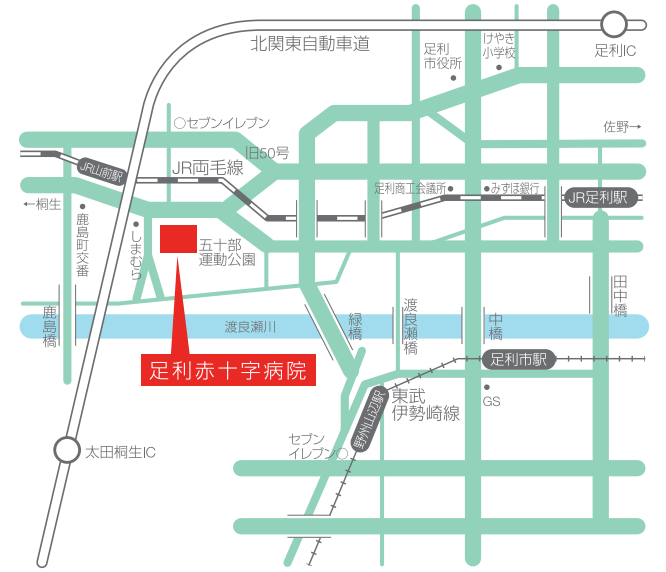
右記に示したグラフは高度医療機器の共同利用件数の過去3年間の推移です。ＭＲＩにおいて、2018年度から増加しております。

当院での検査後、即日、放射線診断科医師が専門的・客観的な立場から画像診断を行い、依頼医のもとへ緻密で正確な読影報告を行っております。

今後も多くの医療機関さまに足利赤十字病院の共同利用を利用いただき、良質で安全な医療の提供に努めてまいりたいと思います。



案内図



【交通のご案内】

- 東武伊勢崎線「北千住駅」（東武特急りょうもう号）より「足利市駅」まで約1時間
  「足利市駅」下車　タクシーで6分
- JR両毛線「足利駅」下車　タクシーで8分／「山前駅」下車　タクシーで3分
- 北関東自動車道　太田桐生ICより10分／足利ICより20分

2021年5月　足利赤十字病院
病診･病病連携推進委員会　地域連携課

地域連携課
- ＴＥＬ／0284-20-1374（直通）
- ＦＡＸ／0284-21-4135
- E-mail／byoushin@ashikaga.jrc.or.jp
- 担　当／石川・松村・永澤・川島

日本赤十字社　足利赤十字病院
Japanese Red Cross Society
〒326-0843 栃木県足利市五十部町284-1
https://www.ashikaga.jrc.or.jp